

自立活動指導案

指導者 笹倉 美代

日時 令和3年11月5日(木) 第3校時(10:45~11:35)
年組 中学校第2学年3組 計4名(男子3名, 女子1名)
場所 中学校第2学年3組教室
題材 前月の振り返りと今月の目標

題材について

生徒観

本学級は、知的障害特別支援学級である。男子生徒3名、女子生徒1名で編成されており、どの生徒も学校行事や授業に対して前向きに頑張ろうとすることができる。得意なことや好きなことは自覚しており、「体を動かす仕事」「絵を描く仕事」など将来の夢を発表することができる。また、お互いの得意なことは認めあっており、「イラストは〇〇さんお願い。」と依頼したり、重い物を運ぶ場面で得意な生徒が自主的に役割を買って出たりすることもある。

一方で、振り返りの場面で、振り返る項目を具体的に示していても、どの項目も「できた」と評価し、自分の足りない部分に気付くことが難しい。その結果、自分の苦手なことを受け止めることが難しい生徒や、苦手なことへの対処方法を身につけられないまま、同じ失敗を繰り返してしまう生徒もいる。

過去に多くの失敗経験をし、苦手なことに対し消極的になる生徒や、笑って話題を変え、自信がないことを隠そうとする生徒もいる。このように困難さの背景は一人ひとり異なるものの、自分の苦手なことを理解し、改善するための方法を身につけ、適切に人に頼ることは、今後の社会生活を送る上で必要だと考えられる。また、成功経験を積み重ね、前向きに努力できるようにするためにも、自分に合った達成可能な目標を立てることが必要である。

本学級では、1年生の時から毎月の目標を決めて、毎日帰る前にチェックをし、できていたらシールを貼って自分の行動を振り返っている。

題材観

目標を立てる上でのポイント(①具体的な目標 ②達成・未達成が判断しやすい目標 ③少しがんばれば達成可能な目標 ④毎日実施できる目標)を伝えることで以下のことが期待できる。

- ①目標を達成するための具体的な行動が分かりやすくなり、適切な行動が増える。
- ②達成・未達成の判断を自分で行うことができ、結果としてできたこと、できなかったことを生徒自身で受け入れ、客観的に自分を振り返るきっかけとなる。
- ③自分の苦手なことや特性の理解が不十分であると、達成が困難な目標だけを設定することや完璧を求める姿勢につながることもあり、達成できなかった場合、必要以上に自信や意欲を失う恐れがある。一方で、達成可能な目標を設定することで、「自分は〇〇をしたらできる」と適切な自己理解と自信をもつことが期待できる。
- ④毎日、帰りの会で確認し、苦手なことであっても改善できる体験を積み重ねることができる。加えて、目標が達成できたかどうかの振り返りの場面では、自己評価だけでなく、友だちからの他者評価も聞くことで、他者から自分の行動がどのように評価されているのかを知ることにつながる。毎

月繰り返すことで、少しずつ周りの人からはどのように見られているのかを知ることができ、自分をより客観的に振り返る力が身に着くと考えられる。

指導観

特性への配慮として

- ・目標を立てる時に、抽象的な言葉（しっかり・頑張る等）を生徒が使用した時に、否定するのではなく、肯定的に捉え、対話をしながらより具体的な言葉（〇〇時まで〇〇する等）にしていく。
- ・具体的な言葉への言い換えが難しい場合は、選択肢を示したり、絵やジェスチャーで示したりする。

一人ひとりの考えを見取れるように

- ・一人ひとり考えたり、書いたりするスピードが違う場合でも、生徒の考えを知ることができるよう、ワークシートを使用し、一人でもある程度進められるようにする。
- ・生徒が質問の意図を捉え損なった場合、早めに修正できるよう、机間指導を行い、簡潔に評価を伝えるようにする。

毎月継続して取り組むために

- ・指導者から多くの指摘があり、修正箇所が多くなると、生徒にとって本題材は「難しい」というネガティブな印象がついてしまう可能性がある。そのため、各生徒の授業での様子や理解度を、ルーブリック評価を用いて適切に捉えて、徐々に理解が深まるように意識しながら対応する。

単元目標

1. 「いつ・どこで・何を・どのように」を含んだ、具体的な行動目標を書くことができる。【知識・技能】
2. 自分の様子を客観的に振り返り、できた（できなかった）理由を説明したり、その目標を設定した理由を具体的に説明したりすることができる。【思考・判断・表現】
3. 目標を立てる時のポイントを意識して、目標を立てたり、修正したりすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

指導計画（全8時間）

1. 今までの振り返りをしよう・・・・・・・・・・ 1時間
2. 今月の目標を立てよう・・・・・・・・・・ 6時間（本時：2/6時間目）
3. 2年生の振り返りをしよう・・・・・・・・・・ 1時間

本時の目標

目標を立てる時のポイントを知り、ポイントに沿っているかどうかを判断することができる。

目標を立てる時のポイントを意識して、目標を立てたり、修正したりすることができる。

本時に関わる、生徒の実態と個別の目標、支援

生徒	本題材に関わる実態	個別の目標（本時）	目標達成のための支援
A	<p>具体的な行動目標（例：授業中にトイレに行くことは我慢し、休憩中に行くなど）であれば、自分の様子を客観的に振り返ることが少しずつできるようになってきた。「あまりできなかった」という評価をすることは少なく、「いつもできた」・「全くできなかった」のような極端な評価になることが多い。</p> <p>書く活動では、端的な表現で書くことができるが、修正点を伝えても、修正しないこともある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の例を見て、○か×で自分の考えを伝えることができる。 ・選択肢から選んで、目標を決めることができる。 ・指導者と一緒に考えた目標を、正しく書くことができる。 	<p>学習内容に集中できるよう、環境を整える。</p> <p>端的な言葉で、質問をする。</p>
B	<p>自分の様子を客観的に振り返ることが、少しずつできるようになってきた。</p> <p>書く活動では、思いついた順に語句を書いている様子で、誰が読んでも伝わる文を一人で書くことは難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の例を見て、○か×で自分の考えを示すことができる。 ・○や×の理由を発表することができる。 ・「いつ・何をするか」を明記した目標を考えることができる。 	<p>目標を立てるときのポイントを、視覚的に示す。</p>
C	<p>自分の様子を振り返る時には、直前の行動や気持ちが影響することが多く、直前にできていたら「いつもできた」と答えることがある。</p> <p>書く活動では、指示を十分に理解しておらず、自分の書きたいことを優先することがある。自分の思いが強いと、修正が難しく、なげやりになることもある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の例を見て、○か×で自分の考えを伝えることができる。 ・「いつ・何をするか」を明記した目標を考えることができる。 ・教師の助言を聞き、目標の表現を修正することができる。 	<p>自分で考えられるよう、やりとりをしながら、よい点を称賛するようにする。</p>
D	<p>自分の様子を客観的に振り返ることが少しずつできるようになってきた。</p> <p>書く活動では、漢字や拗音の表記について間違ふことがあるが、指示を理解して適切に書くことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の例を見て、○か×で自分の考えを示すことができる。 ・○や×の理由を発表することができる。 ・「いつ・何をするか」を明記した目標を考えることができる。 	<p>話を聞き、生徒自身の思いを話させるようにする。その思いを承認することで、より前向きに目標を立てられるようにする。</p>

学習の展開

学習活動	指導上の留意点（◆評価）
1. 本時のめあて及び内容を確認する。	○学習発表会への意欲が高まるよう、生徒に問いかけながら確認する。 ○見通しをもちやすくするために、本時のめあてを板書する。
2. 前月の振り返りをする。	○前月の目標シートを机上に準備し、シールの数を数えるよう指示をする。
3. ポイントを確認する。	○各自のペースで進められるよう、ワークシートを用いる。 ◆目標の例を見て、目標を立てる時のポイントに沿っているかどうかを判断しているか。【思考・判断・表現】
4. 今月の目標を立てる。	○各生徒の理解が深まるように、問いかけながら、ポイントを確認する。 ◆目標を立てる時のポイントを意識して、目標を立てたり、修正したりしているか。【主体的に学習に取り組む態度】
5. ポイントを参考にし、修正する。	○修正した方がよい箇所に生徒自身で気が付けるように、問いかけを行ったり、選択肢を示したりする。
6. 清書して、貼る。	○机間指導をしながら生徒の進度に応じて個別に指示を出す。
7. 本時の振り返りをする。自立活動振り返りシートを記入し、指導者のチェックをうける。	○振り返りシートの記述に対しコメントを行い、各生徒のよかった点を具体的に伝える。

準備物

名前マグネット、掲示物、ワークシート

座席表

